

28年度 第1回 都市機能・生活関連機能サービス分科会 議事録

(1) 日 時：平成28年12月22日（木）15：30～17：00

(2) 場 所：久留米市役所 305会議室

(3) 出席者：都市機能・生活関連機能検討分科会 11名

(欠席委員 2名)

事務局4名、各ワーキンググループ職員

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 議 事

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

1. 開会
2. 議事
<p style="text-align: center;">(1) 久留米広域連携中枢都市圏ビジョン</p> <p style="text-align: center;">①成果指標の評価について</p>
<p>〔取組みの状況・成果指標の評価について説明〕</p> <p>(質疑なし)</p>
<p style="text-align: center;">(1) 久留米広域連携中枢都市圏ビジョン</p> <p style="text-align: center;">②平成28年度連携事業の進捗状況及び平成29年度事業計画について</p>
<p>〔地域公共交通、交流・移住促進、人材の育成及び確保について説明〕</p> <p>○西鉄バスでは、久留米市のほか近隣市町とともに連携を図り公共交通の維持確保に取り組んでいる。報告のとおり今年度の「バス鉄道フェスタ」には、各市町の協力もあり、5,000人も多く参加者があった。引き続き、連携を図り公共交通の利用促進につなげていきたい。</p> <p>○福岡県でも移住促進のためのセンターが開設されているが、ターゲットが重複するようなことはないのか。</p> <p>○今年7月、東京に「移住相談センター」を開設した。福岡県の市町村には、ここを活用して移住促進を進めていただきたい。久留米広域連携中枢都市圏を始め県南地域への移住促進の取組みに対しても、事業の重複や漏れがないように進めていきたい。</p> <p>○都市部では、適齢期の女性の方が多いと聞いているので、都市部の女性と「農婚」や就農などの情報発信などを都市部の施設を使って発信できないか。</p> <p>○移住相談センターは、開設したばかりで若年層への就職情報や子育て支援情報がメインとなっている。福岡県農林水産部では、福岡都市圏ではあるが就農セミナー、相談会などを開催している。</p> <p>○小さな町で人材を育成していくことは、大変であるので、成果があるものとしてほしい。</p> <p>○地域公共交通について、地域間のネットワークを構築する中で重要であるが、他の施策との連携をどのように考えているのか。</p> <p>○久留米市がコンパクトシティを掲げているが、広域においてコンパクトシティの取組みをどのように結びつけていくのか。</p> <p>○地域おこし協力隊では、どのような活動を考えていくのか。そこには人材育成の観点も必要になるのではないかと。</p> <p>●今年度、広域連携により「バス鉄道フェスタ」が成功したように、こういった事例を積み重ねていき、この地域にどんなネットワークが必要か、どんなハード整備が必要か、次年度以降にはなるが</p>

WGでの議論を重ねていきたい。

- 久留米市においては中心拠点と地域生活拠点を設ける立地適正化計画の策定に向けた作業が進んでおり、交通については立地適正化計画と連携して拠点間の交通ネットワークの維持を図っていくこととしている。広域でのコンパクトなまちづくりの考え方については、具体的な整理がされていないものと認識している。今後の状況を見守っていきたい。
- 地域おこし協力隊の交流会を年明けに開催したい。協力隊の皆さんは、それぞれのミッションを持って各自自治体で活動されている。ミッションは異なるかも知れないが、共通の課題や困った事などの洗い出しが出来ればと考えている。その中で研修などの必要性が出てくれば、検討していきたい。
- 地域公共交通と福祉分野や高齢者対策など、事業間での横の連携が重要であると考えている。また、地域おこし協力隊での人材育成のような連携が必要である。このような連携により、これらの41事業の効果が増すような取組みとしていきたい。

【圏域全体の賑わいづくり、文化芸術に触れる機会の提供、地域振興について説明】

- 久留米市美術館が開館し、久留米圏域や鳥栖などからも来場いただいている。来年度から美術鑑賞事業として、圏域からの実施が可能なのか。
- 本年度、各市町の担当課との協議を行ってきたが、課題として学校現場のスケジュールが一杯の状況にあり、その中でこの事業を入れていただく努力が相当必要である。今ある事業の組み替えやコースの変更など、少しずつでも取組んでいただけるよう努力していきたい。
- シティプラザの芸術鑑賞事業があるが、文化振興会の取組みでも職員だけでは足りない状況であり、ボランティアの協力が必要であるが、ボランティアの育成など現場は大変である。芸術に触れることは、子ども達にとって大切なことでもあるので、大変ではあるが実施に向けてがんばっていただきたい。
- 自分自身、学校と関わることが多いが、特に中学校において新たに事業に取組みはもちろん、これまでやってきた事業でも計画に入れてもらえない状況である。大木町においても、夏休みを利用して参加する事業が多く現実的ではあるが、美術館などの受け入れ側の体制も必要である。芸術・文化に触れることは重要であるので、本当なら親が申し込まないと参加できないというよりは学校として参加できよう取組みが望ましい。
- 夏休み期間中など、子どもが来やすいような展覧会やワークショップなどに取組んでいきたい。
- 大変面白い事業であると思うが、今はまだ、久留米市が中心となっているようであり、各市町にどのようなつながっていくのかが見えない。事業が軌道に乗っていくには、これからだと期待している。

【高度な医療サービスの提供、地域医療について説明】

- 小児救急医療、ドクターカーなど医療環境が整うことは住民にとっては、より良い事である。しかし、診療報酬の改訂など病院経営を取り巻く状況は厳しく、大きな病院でも赤字経営となっているところもあり、今後、病院数が減ることも考えられる。将来の地域医療の確保について、不安であり、考えていく必要であると思う。

【子育て支援について説明】

- 病児保育施設が田主丸に出来たことは、大変ありがたい。病児保育を受ける場合の受付は、申し込み順なのか、シングルマザーを優先したりするのか。

- 病児保育の受付は、申し込み順で行っている。
- 発達支援事業について、圏域の利用者が少ないようであるが、全体のニーズが多く支援を受けられないのか、圏域からのニーズが少ないのか。
- 昨年度は、申し込んでも6ヶ月待ちといった状況であったが、今年度は、常駐の医師を配置し、1～2ヶ月の待ちとなっている。療育や訓練を行える枠も、1.5倍となった。また、各市町における、発達支援の制度が充実してきていると聞いており、発達障害がある子どもさんを久留米まで連れてくるのが大変であることも要因としてあるかもしれない。
- 発達支援事業について、福岡県などで保健師の研修などが行われているのかもしれないが、圏域での人材育成や情報の共有など連携した取組みもお願いしたい。

(2) その他

〔次回、全体会の案内〕

- これで本日の懇談会は終了する。